

緑の歴史や現状を広く伝える ボランティア活動

NPO法人 福島県緑の協力隊（福島県）

水と緑の大切さを
再認識する活動

平成十二年四月、福島県郡山市を本拠地としたNPO法人、福島県緑の協力隊が発足しました。地球環境保全を目的に、環境問題に悩む隣国、中国の治山治水事業や砂漠緑化、生活環境向上などの活動に取り組んでいます。

「今深刻な問題になっている地球温暖化や砂漠化などについて、自分たちになにができるか考えたときに、これらの問題が特に深刻化している土地に、大気中の二酸化炭素を吸収する樹木を植樹するのが安価で有効だと考えて、多くの人たちに支援してもらいながら活動しています」

というのは、福島県緑の協力隊長の塩田修二さん。平成六年に前身である日本砂漠緑化実践協会福島県支部を解消し、新たにNPO法人を発足したことで、活動のフィールドを福島県内にも広げて、植林や間伐、下草刈り、除草、ごみ拾いなど積極的な森林ボランティア活動を展開しています。

さまざまな活動を行う中で、全国から注目を集めるボランティア活動



中国内蒙古自治区にある、ポプラを植樹した福島県民の森

があります。それが、福島県のうつくしま基金助成事業として今年から始まった『郡山水と緑の案内人』。水と緑を大切にす文化のある郡山の歴史や環境を改めて学び、郡山を訪れる観光客などに水と緑の大切さを紹介するボランティアを養成するというもの。

「明治時代の先人たちが国家の第一事業として安積開拓地に水と緑の基礎を築くなど、郡山という土地は、水と緑を大切にしてきた歴史的背景があります。これらを地元の人たちが



中国湖北省でも緑化活動を実施

が改めて認識し、水や緑の現状や大切さを知ってもらい、その知識や思いを観光で来られる方たちに伝えることで、より多くの人に水や緑を大切にしようとする意識を高めてもらうという狙いがあります」

案内人を育成するセミナーを昨年から実施しており、一年間で七回ある講習に六〇人以上が参加し、今年四月の事業スタート時には四二人が案内人となって今も活躍しています。また、地元だけでなくほかの地域からも「案内人になるには？」という



上：緑溢れる安積疎水での見学会

下：地元で開かれた、ふるさとの木を学ぶ会

問い合わせが事務局に続々寄せられているといいます。
 「郡山の水や緑に興味をもってくれている人が増えてきている、と実感しますね。水や緑といった資源が豊富で日常的にあるものだから、この資源に対する意識が薄い人がまだまだ多いと思います。しかし、『郡山水と緑の案内人』のような活動を知ったり、参加したりすることで、郡山の水や緑の歴史を知り、これらの現状を知り、今後どうして行くべきかを考えるようになるのです。こ

ういう意識を日常的にもてるようになることが、今後の緑化活動などを行う上で重要になってくると思いますが、ボランティア活動はなにも森林に入って実施するものばかりではありません。歴史や現状を広く伝えることも大切な活動の一つです。『郡山水と緑の案内人』事業は、識者、自治体、一般人に至るまで多くの方々から広く注目されており、今後活動がさらに発展していくことが予想されます。

data

〒 963-8835

福島県郡山市小原田 3 11 4

☎ 024-944-9110

<http://www.f-midori.com>